

## COPEL 2019 : The 9th Campus Fiesta in Shizuoka University

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井原, 麗奈 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00027541">https://doi.org/10.14945/00027541</a>

## 「コペル 2019」 第9回キャンパス・フェスタ in 静岡

井原 麗奈（静岡大学地域創造学環）

開催日：2019年11月16日（土）・17日（日）（各日10:00～16:00）

会場：静岡大学 教育学部B棟 美術アトリエ(201・202号室)

内容：美術を専攻する学生による美術作品の公募による展覧会

参加人数：317名

アート&マネジメントコースでは、地域創造演習ⅡA・Bの授業として、また第9回キャンパス・フェスタ静岡の一環として「コペル 2019」という公募展を企画・運営した。授業で架空の公募展を企画したが、一部の学生から実際に開催したいという要望があり、実現させるに至った。作家として参加した学生にとっては、作品を発表する機会を得ただけでなく、来場者や同級生から自分の作品に対する感想を聞くことのできる機会となった。またキュレーションに関わった学生も、印刷物を作成して広報計画を立てたり、会場を整えて来場者を誘導したり、作家の作品の制作の進捗を把握したりするなど、多岐にわたる仕事に携わり、多くの学びを得られた。

会期までに1週間おきに合計4回、学内の至る所で配布された「機関紙」(図3)は、展覧会の趣旨や経緯をイラストで示したものである。美術に興味のない人にも興味を持ってもらおうとする、学生のアイデアと工夫は概ね成功していたと思われる。但し、準備や当日の運営方法については学生主体で運営したとは言い切れず、課題が残った。

一方、大学祭と同時期に行われるキャンパス・フェスタ in 静岡の一環として行ったことで、予想以上に様々な年代の多くの来場者を迎えられたこと、アンケートを通じてフィードバックを得られたことは意義深かった。特に「作品鑑賞からいつもとは違う新しいものの見方に触れることができた」という内容のコメントが多く寄せられた。展覧会タイトルは鑑賞者の価値観の「コペルニクスの転回」を目指すことを意図したものであったことを考えると、当初の計画で学生たちが企図した趣旨は伝わったと言えるだろう。



図1：展覧会の様子（撮影：河村清加）

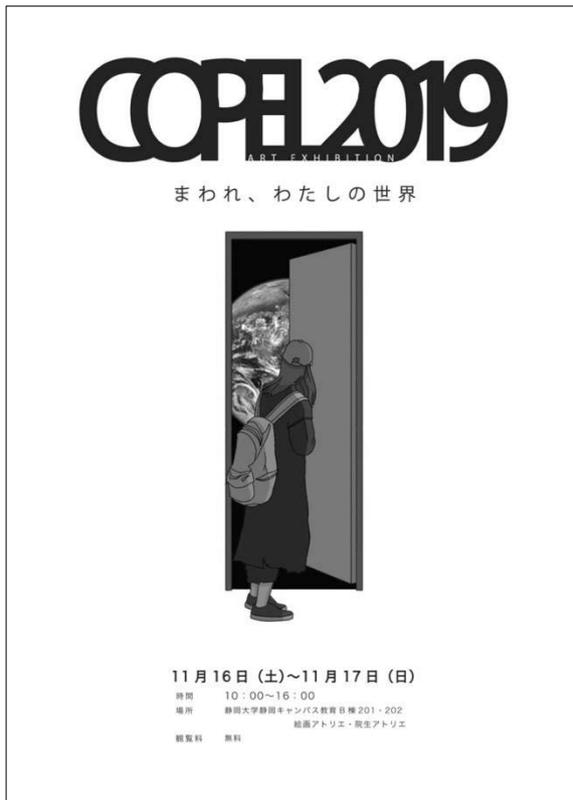


図2: チラシ (上段左 / デザイン: 玉木絢女)

図3: 機関紙 (上段右・下段左右 / デザイン: 中村実季)

\*デザイン、撮影の学生はいずれも地域創造学環アート&マネジメントコース2年